

A-7: URA組織・人材・役割

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 13:50-15:20 B102(1階)

URAの人的ネットワークから得られるものとは？

近年、URA組織の定着・展開によりURAとして活動する人材は増加している。また、大学等における研究活動も多様化や複数機関による連携が必要とされる大規模な形態が目立つようになってきた。そのような背景のもと、URAが研究支援を行うに当たり、人的ネットワークの必要性が言及されることがある。しかしながら、実際「いつ」「どこで」「どういった状況で」「なぜ」必要なのか、Beginnerレベルではなかなか実感する機会が少ないと感じている。また、MiddleレベルのURAであっても、ネットワークを活用することにメリットを感じているものの、自らネットワークを活用して企画立案を行う段階に到達するためには、それなりのスキル・ノウハウが必要であると考え。そこで、本セッションでは、URA同士の人的ネットワーク基盤を創出した例や活用例、URA間だけでなく、URA-地域・企業をつなぐ仕組み、ファンディングエージェンシーの研修制度を活用した人的ネットワークの拡大により成果を創出する取り組みを実務者から紹介いただくことにより、実務に即した人的ネットワークの必要性や活用の具体について情報交換する機会とし、プレアワード業務や技術移転業務の展開の一助となることを期待する。

オーガナイザー

設楽愛子: 国立大学法人東京海洋大学 産学・地域連携推進機構 URA

2015年2月より東京海洋大学URAとして活動している。博士(海洋科学)。JSTPM研修4期生。東京海洋大学にてURAとして、産業に直結した水産・海洋分野の研究・開発を支援をする。国内外共同研究についてプレアワードからポストアワード、知財管理、地域との合意形成、技術移転等、幅広く活動している。

川谷健一: 国立大学法人弘前大学 COI研究推進機構 URA 講師

大阪大学大学院基礎工学研究科修了。修士(工学)。都内特許事務所勤務を経て、2015年よりJSTのセンター・オブ・イノベーション(COI)プログラムの弘前大学拠点のURAとして、計画書・報告書の作成や契約業務などのプロジェクト支援を担当。特に若手研究者の支援に力を入れており、COIプログラム全体での若手研究者間の交流イベントの企画・運営に関わる。

講演者

阿部紀里子: 国立大学法人信州大学
学術研究・産学官連携推進機構 URA室 講師／URA

福岡県出身。岡山大学大学院修了後、特許事務所勤務。2005年より山梨大学、慶應義塾大学、浜松医科大学、首都大学東京、慶應義塾大学病院において産学連携・知財・研究支援業務に従事し、2016年から現職。知財・利益相反・ABS・医工連携を担当。1級知的財産管理技能士。修士(工学)。MBA。RA協議会スキルプログラム専門委員会・委員。現在、URAのネットワーキングのためのFacebookグループ(非公開・約90人)を試行中。

池田吉用: 国立大学法人東京海洋大学
産学・地域連携推進機構 URA

東京海洋大学URAとして水産・海洋関連の産業・地域との連携業務に携わっている(理学修士、水産海洋イノベーションオフィサ、JSTPM研修3期生)。技術相談の窓口対応や研究開発プロジェクトの支援経験の中で、今回は特に遠隔地との連携について話題提供を行う予定である。

松原雄介: 国立大学法人 東北大学
研究推進・支援機構 URAセンター 特任助教

民間企業(製薬)での研究者を経て、2015年3月より東北大学URAとして、産学連携や、センター・オブ・イノベーション(COI)事業における拠点運営、研究推進等に従事している。また、官民イノベーションプログラムでのベンチャー化支援にも従事している。
組織対組織の連携や、コンソーシアム型の研究開発など、産学連携の大型化に向けた企画立案・推進していくべく、JSTのPM研修の4期生として修業中。

川谷健一: 国立大学法人弘前大学
COI研究推進機構 URA 講師

大阪大学大学院基礎工学研究科修了。修士(工学)。都内特許事務所勤務を経て、2015年よりJSTのセンター・オブ・イノベーション(COI)プログラムの弘前大学拠点のURAとして、計画書・報告書の作成や契約業務などのプロジェクト支援を担当。特に若手研究者の支援に力を入れており、COIプログラム全体での若手研究者間の交流イベントの企画・運営に関わる。